

ボール運動における課題ゲームの有用性

～積み上げ学習の前半において見られた話し合い活動の変化と技能の向上の関係から～

発表者 小林市立南小学校 井上 伸也

司会・進行 宮崎市生目台東小学校 山下 克幸

発 言 者	内 容
尾向小 河村	<ul style="list-style-type: none"> ・「ずれを作る」をどう子どもたちに説明するか？ → 第2時でドリブルの練習 「ドリブルが止まったらどうする？」と発問 そこからどうやればパスがつながるか考えさせ、「敵と位置がかぶらないように動くこと」をずれるという説明した。
附属小 高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・攻撃側有利のルールについて子どもたちの反応は？ →バスケを習っている子たちは自分たちがシュートが打てなくて不満そうだったが、習っていない子や苦手な子は、楽しそうに取り組めた。 習っている子も、パスに喜びを見出すことができた。
スポーツ指導 センター鍋西	<ul style="list-style-type: none"> ・ボール獲得数とはどんな数か？ →自分たちがボールを手にした状態すべて。 ・課題ゲームは、ずれを作るためのゲームか？ →他にどんなゲームがあるのかわからないが、これは課題ゲームの中の一つである。 ・タスクゲームと同意か？ →タスクゲーム＝ドリルゲームで、課題ゲームは通常に近い形で簡易化して行うものと認識している。
倉岡小 塩塚	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人に回せば得点が増えるなどのルールはなかったのか？ →今回は設けていない。 ・ずれとは？いろんなずれがあると思うが。 →ボールを持つ味方と相手が一直線上に立たないように、「ずれる」ということである。 ・高さなどの空間的ずれ、速さなどの時間的なずれもある。
大宮小 緒方	<ul style="list-style-type: none"> ・通常のルールで行ったほうがやはりよいのか？ →課題ゲームの成果を見るためにも、やはり行ったほうがよい。